

プロフィール



江守 正多(えもり せいた)

【現職】

国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化リスク評価研究室長

東京大学 気候システム研究センター 客員准教授

【略歴】

1997年 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 博士課程修了、博士(学術)取得

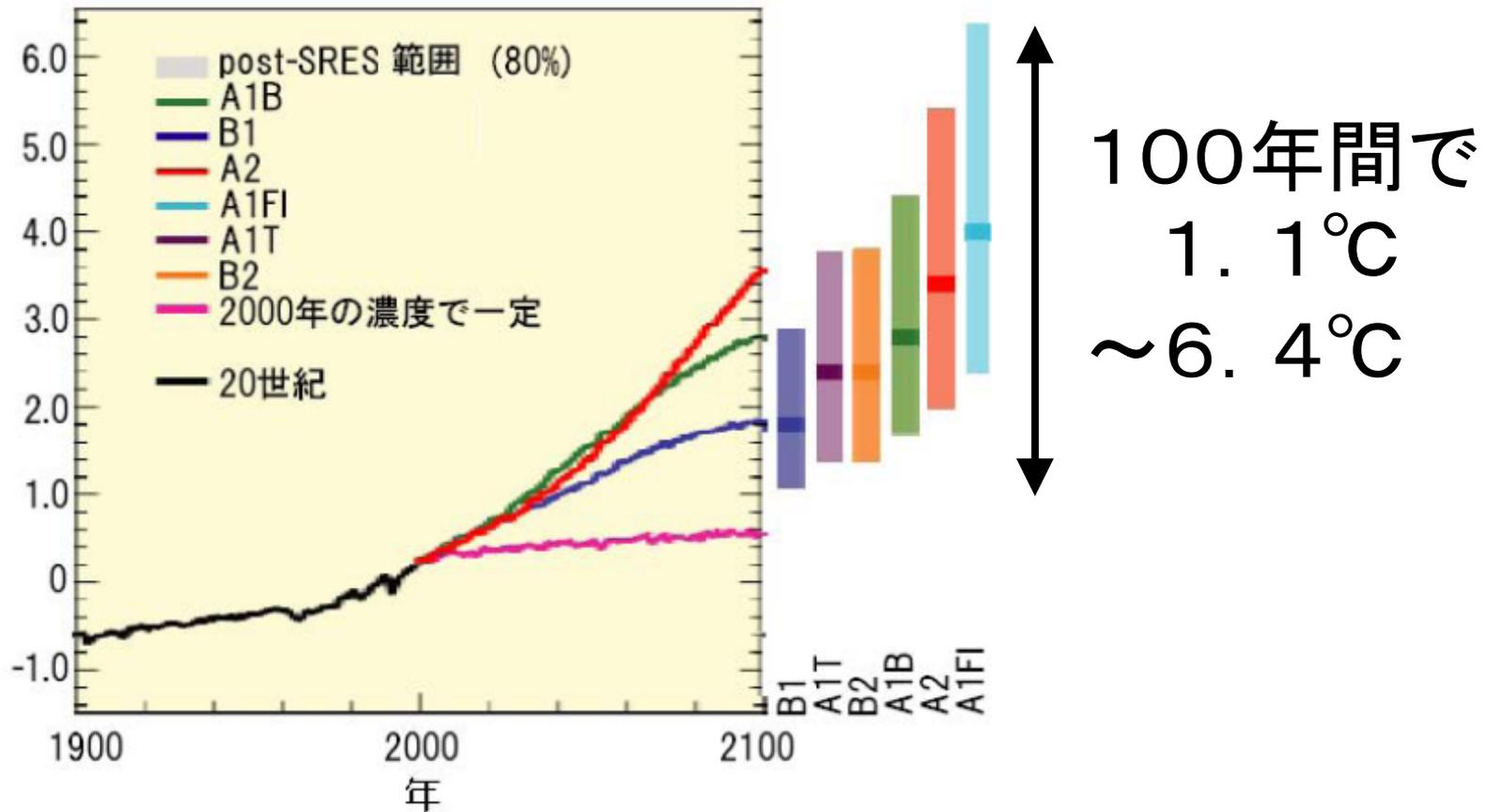
1997年 国立環境研究所 大気圏環境研究部 大気物理研究室 研究員

2001年 地球フロンティア研究システム モデル統合化領域 研究員(出向;2004年まで)

2005年 国立環境研究所 大気圏環境研究領域 大気物理研究室長

2006年 より現職

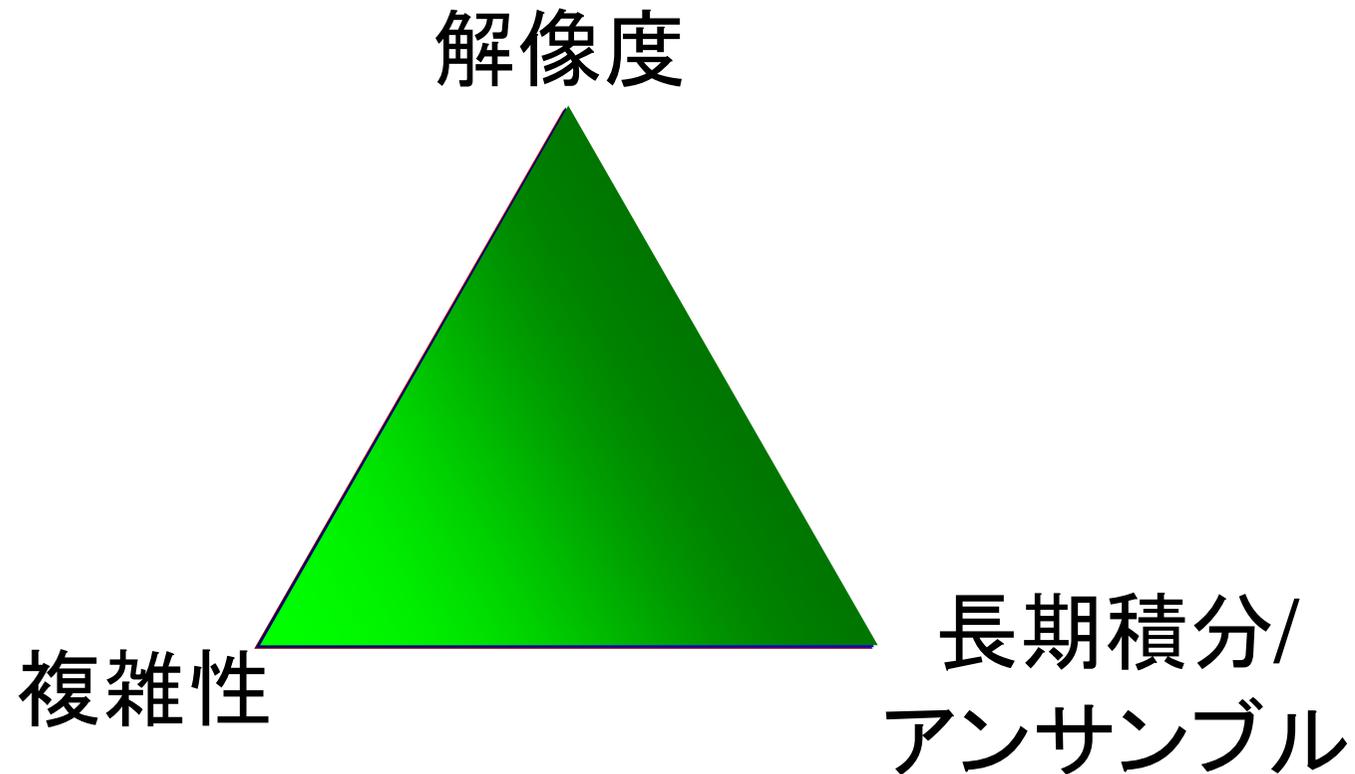
IPCC AR4における 地球平均気温上昇の予測



社会の発展の仕方によって異なる
科学的な予測にも幅がある

IPCC AR4 SYR SPM

温暖化予測(気候モデリング)におけるリソース配分



解像度の必要性

- プロセス研究
 - タイムスライス実験
- ※ただし、解像度の向上だけによってはモデルは現実には近づかない(雲を解像しても、雲微物理のパラメタ化が必要)

複雑性の必要性

- 地球システムモデル
気候モデル＋物質循環＋生態系＋氷床etc.

長期積分/アンサンブルの必要性

- 長期のコントロールラン(数百年～)
- 長期のシナリオラン(～300年?)
- 過去再現ラン(150年～?)
- 古気候ラン(数百年～?)

- 初期値アンサンブル
- 将来シナリオアンサンブル
- 過去再現実験の要因別アンサンブル
- 物理アンサンブル

大気モデル解像度の変遷(私見)

積分種別	トータル積分期間	ES以前	ES	次世代
プロセス研究	数ヶ月～1年		3.5km	0.5km?
タイムスライス	数10～100年	100km	20km	3.5km?
長期積分	数100～1,000年	300km	60～100km	20km?
長期積分・アンサンブル	数1,000～10,000年		300km	60～100km?